



01 NEWS

農機無料点検

3月10、11、13、14日の4日間、営農支援センターで、組合員を対象に農機具の無料点検とオイル交換の特別キャンペーンを開きました。期間中、延べ56人の組合員がトラクターや管理機、草刈機などを持ち込みました。営農支援センター職員と応援に駆け付けたJA全農東京農機サービスセンターの職員らが、計157台の農機具の点検やオイル交換をしました。点検中に修理が必要な物は預かり対応しました。



農機を点検する職員ら



02 NEWS

日の出 竹林整備開始

日の出町農業担い手の会は3月14日、竹粉砕用のチップパーを用いた竹林整備に着手しました。この会は2023年に日の出町の若手農業者6人が、日の出町農業振興委員会の下部組織として立ち上げたものです。放棄竹林の拡大抑止と竹の有効活用を目的に竹林整備を行って

います。会員は山から切り出した直径15センチほどの竹をチップパーに入れ粉砕し、竹チップを作りました。スクリーンを目の細かい物に交換すると竹粉にもできます。チップ化した竹は山道に敷き詰め、防草資材として活用しました。



竹を粉砕する会員



03 NEWS

レジ袋収益金を寄付

3月27日本店で、各経済センターと直売所で販売するプラスチック製レジ袋の収益金を、あきる野市・日の出町・松原村に寄付しました。この取り組みは自己改革の一環で、環境保全の役割を果たし、社会的評価を高めることが目的です。2024年4月から2025年2月までの販売枚数3万7千枚、約18万円分を寄付しました。谷澤俊明組合長は「レジ袋の収益金は、地域の社会福祉活動に役立っている。これからも、生産から販売まで循環型社会やSDGsを意識した取り組みを進めていきたい」と話しました。



収益金を手渡す谷澤組合長（右から3人目）



04 NEWS

日の出支店 大抽選会

3月29、30日の2日間、日の出経済センターぐりむで、プレオープンを記念した大抽選会を開きました。1等に米、2等に味噌、3等に新鮮野菜セット合計60点と、参加賞を用意しました。アンケートの協力者へ抽選券を配布するほか、ぐりむでの2000円以上のレシートやガソリンスタンドでの10リットル以上給油のレシートを抽選参加券としました。2日間で315人が抽選に参加し、回数は550回と盛況でした。



抽選会場の職員



05 NEWS

日の出 加工用トマト栽培

日の出町農業振興委員会トマト部会は4月9日、加工用トマトの試験栽培定植会を開きました。部会員8人が参加し、露地栽培用のトマトで支柱を使わず地這いで栽培する「なつのしゅん」の苗230株を植えましました。耐病性、耐虫性が弱い品種のため、定植後は遮光・防草シートを畝間に張り、苗には赤色防虫ネットを展開しました。試験栽培は、今年で2年目です。定植時期や遮光・防草シートを張るタイミング、殺菌剤の散布時期やローテーションを変え、収穫は6月下旬で3トンを目標とし、学校給食やピュアに加工し活用する予定です。



トマトを植える参加者



06 NEWS

新入職員農業体験

4月3、4日の2日間、日の出町の馬場敏明さんの圃場で、2024年度経験者採用職員1人と2025年度新採用職員3人を対象に農業体験研修を実施しました。自己改革の一環で、組合員の農業・農家経営に対する考え方を体得することが目的です。職員4人はハウスでトマトの苗ポットの間隔を広げるスペーシング、トマトの誘引を行うひもづけ、トウモロコシやキュウリの種まきをしました。山口大希さんは「野菜を買って食べられることができた。これまで以上に食材と農家さんに感謝して食べなければいけないと感じた2日間だった」と話しました。



播種作業をする職員





八重コデマリとシジミバナ



優秀賞のカレックス エベレスト



農業祭会場

07 NEWS 第54回東京都農業祭 「植木の部」入賞

4月11日、調布市神代植物公園で、東京都農業祭植木の部が開かれ、都内全地域から638点の植木の出品がありました。

東秋留地区の平野久雄さんが7点出品し、グランドカバー「カレックス エベレスト」が優秀賞を受賞しました。

12、13日に一般観覧と即販売が行われ、園芸資材の販売や植木園芸相談などもあり、会場はにぎわいました。



08 NEWS 第2回あぐりスクール開校

4月19日、秋川ファーマーズセンターに隣接する市民農園で、第2回あぐりスクールを開きました。6家族19人が参加し、トウモロコシの種まきと江戸東京野菜の「らぼう菜」の収穫を行いました。トウモロコシの種まきでは、ベットを作るために鍬で作切りから行い、生分解性マルチシートを張り、一家族1列ずつ種まきしました。職員がマルチシートを張る目的や、生分解性のシートが自然に優しい環境に配慮した物で、農業の分野でもSDGsの取り組みがなされていることを説明しました。



種まきする参加者



09 NEWS 野菜苗特別価格販売

4月26、27日の2日間、日の出経済センターぐりむで、野菜苗の特別販売を行いました。苗は毎年楽しみにしている来店客のために、管内農家が開催日に合わせて育てたものです。ナス、キュウリ、トマト、カボチャ、ピーマン、シシトウなど全8種類4179本の苗を販売しました。来店客は苗を我先にと段ボール箱に入れていき、数十個単位で購入する客も多く「ここで買う苗は成りが良く昨年よりよくできた。目当ての苗が買えてよかった」と話しました。



来店客でにぎわう会場



10 NEWS 芝桜満開

4月下旬、多西支店花壇の芝桜が満開となりました。芝桜は来店客や地域住民に喜んでもらおうと、8年前に植栽しました。支店に勤務する職員が始業前に水やりなどの管理をしています。丹精込めて育てた甲斐あって、毎年綺麗に咲いており、支店の春の風物詩となっています。岡部浩政支店長は「今年もお陰様で綺麗な花が咲きました。足を止め観賞する方も多く、来店客にも喜んでもらえて嬉しいです」と話しました。



満開の芝桜を喜ぶ職員



11 NEWS 職員サークル 畑の会

若手職員の有志による農業体験サークル「畑の会」が発足しました。20から30代の若手職員から「農業に馴染みがなく農家さんを訪問しても何を話してよいかわからない。農業を学べる場があればいいのに」との要望を受けて職員が企画しました。初回の5月3日は子どもを含む13人が参加しました。鍬を使い作切りし、マルチシートを張りトウモロコシやミニトマト、ナス、ピーマンなどの苗やサトイモの種芋の植え付け作業に汗を流しました。畑の会は、12月まで月2回開催し、14品目の野菜の栽培に挑戦します。



畑の会メンバー



12
NEWS

日の出 幼竹をメンマに加工

日の出町農業担い手の会は5月9日、竹林整備の一環として幼竹を収穫し、メンマへの加工を始めました。会員6人が町内5カ所の竹林より幼竹を切り出し、同町の加工施設肝要の里に約30キロを納品しました。幼竹は皮をむき、節を取って10センチ幅に切り、ゆでて塩漬けにします。2、3カ月間漬けた後、塩抜き、味付けの工程を行いメンマが完成します。

会長の門馬 睦さんは「今年は裏年で、タケノコの収穫量が少なかった。来年は量も増えるので、塩漬けまでの工程を自分たちでやり、商品化できるよう頑張りたい」と期待を込めました。



幼竹を切り分ける会員

12

つくる責任
つかう責任13
NEWS市政30周年記念
環境フェスティバル参加

5月10日、都立秋留台公園で、あきる野市市制施行30周年記念事業「あきる野市環境フェスティバル2025」に初出店しました。地球環境保全としてエコシステムの普及拡大を目的に、株式会社サンジュニアの協力のもと太陽光ソーラーシステムや蓄電池などの展示と相談会を開きました。業務部推進課の沖倉 伸課長は「販売だけでなく、JAの総合事業を活かしたエコシステムのPRができた。次回は子ども向けのアトラクションも用意し集客に力を入れたい」と話しました。



ブースの様子

8

働きがいも
経済成長も14
NEWS

増戸ますます市でJAをPR

増戸地区の「増戸商栄会」は、5月7日から18日までの期間、地域の活性化を目的に、「第20回増戸ますます市」を開きました。最終日の18日は増戸支店駐車場で大抽選会や、ヒップホップダンス、写真展示、模擬店、キッチンカーの出店や即売会等さまざまなイベントを行いました。

増戸支店では焼き鳥を販売し、購入した来場者に地域の花き生産者が育てた黄色とオレンジ色のマリーゴールドをプレゼントしました。



花をプレゼントする職員(写真左)

11

ほみまけられる
まちづくりを15
NEWSJA共済アンパンマン
交通安全キャンペーン

5月25日、本店駐車場で「JA共済アンパンマン交通安全キャンペーン」を開きました。次世代を担う子ども達に向けて地域貢献活動の一環として開催しています。午前と午後2回の公演に869人の親子が来場しました。

参加者は交通マナーやルールを、JA共済イメージキャラクター「それいけ!アンパンマン」の仲間たちと一緒に歌や踊り、ゲームを通して学びました。会場では、キッチンカーなどが並び会場を盛り上げました。

開会の挨拶をする
島崎明広常務

©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

4

質の高い教育を
みんなに16
NEWS営農部会
暑熱対策講習会 開催

営農部会は5月29日、管内の組合員を対象に野菜栽培における暑熱対策講習会を開きました。地域で営農に励む組合員、役職員合わせて23人が参加しました。

講師は、都農業振興事務所の野口 貴氏が務めました。暑熱対策は、高温が原因で発生する障害（高温障害）を防ぎ、健全な野菜の生育を促すための対策で、①施設の昇温抑制対策、②露地野菜の高温障害対策、③施設栽培トマトの障害果対策の3つをテーマに講演しました。



講演を聞く参加者ら

4

質の高い教育を
みんなに

中途採用職員

5月より新しい仲間が加わりました!
よろしくお願いいたします。

つかはら ひろき
塚原 大樹

■配属先: 増戸支店 貯金担当
■趣味: サッカー観戦・サウナ
■抱負: 常に学び続け、貢献できるように
努めてまいります。